

#001

上越の伝統を復活させる

仲六 青芋のいえ

原 理 佐

(47)

大阪府に生まれた原理佐さん(整体師)は、上越に住んで約10年。地元の人から「なぜこんなところに来たのか?」と質問されるたびに彼女は思う。「上越は、こんなにステキなところなのに、みんなには見えていないだけ」。みんなが良いところに気づき、上越が変わっていくことを原さんは願っている。そんな原さんの大きな瞳はまっすぐに未来を見すえている。

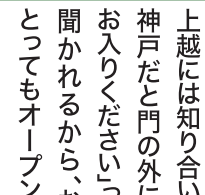
高校生の時、大阪の近鉄劇場で「鼓童」を見て、すごくエネルギーが伝わってきた。神戸で働いていた時に手術をしたけれど、全く回復せず、立ち上がることもできないくらいでした。そんな時、ある整体に行ったら治ったんです。治らないってあきらめていたのに。だから、同じように苦しんでいる人を救いたいと思い、私もこの船に乗って。上越は高い建物が少ないから空が広くて、青くて、ご飯も美味しくて良いところだと思っています。



ところがね、私は30代半ばで体調を崩しちゃった。神戸で働いていた時に手術をしたけれど、全く回復せず、立ち上がることもできないくらいでした。そんな時、ある整体に行ったら治ったんです。治らないってあきらめていたのに。だから、同じように苦しんでいる人を救いたいと思い、私もこの船に乗って。上越は高い建物が少ないから空が広くて、青くて、ご飯も美味しくて良いところだと思っています。

上越では知り合いがほとんどいないので、整体をやっていることを知ってもらおうと、歩いてまわりました。神戸だと門の外にポストがあって、チラシを入れておしまいだけれど、上越では門があるけれど、どうぞお入りくださいって感じ。中に入るとお家の方にも会うわけですよ。「いや〜なに〜?」って聞かれるから、お話することもあって。そうすると「がんばり〜や」と言ってもらって。とってもオープンでみんな優しい。そうしているうちに徐々にお客さんが増えていきました。

それで上越で調べてみたら、大家さんもやっていいよと言ってくださり、家賃も安い。なんていいところなんだ!じゃあ、私は上越でするわーと、こちらに来たんです。



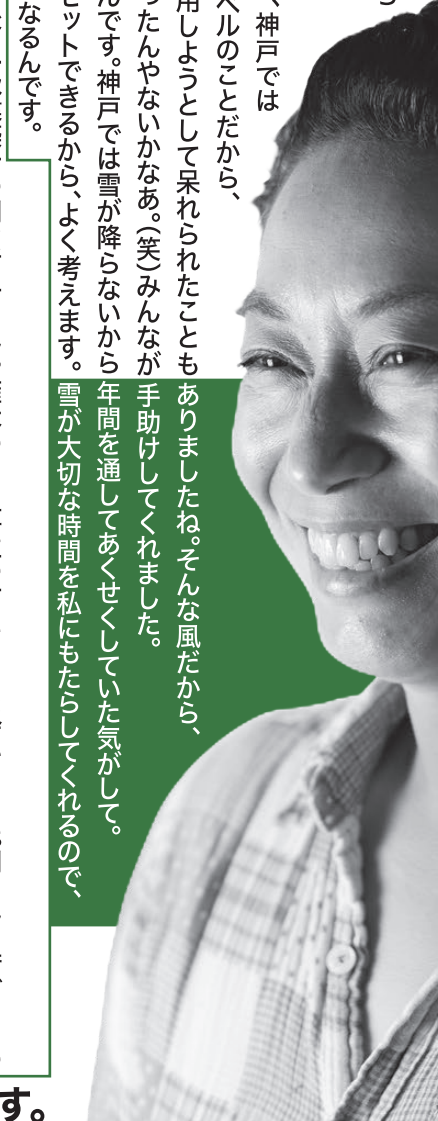
上越には知り合いがほとんどいないので、整体をやっていることを知ってもらおうと、歩いてまわりました。神戸だと門の外にポストがあって、チラシを入れておしまいだけれど、上越では門があるけれど、どうぞお入りくださいって感じ。中に入るとお家の方にも会うわけですよ。「いや〜なに〜?」って聞かれるから、お話することもあって。そうすると「がんばり〜や」と言ってもらって。とってもオープンでみんな優しい。そうしているうちに徐々にお客さんが増えていきました。

上越に、

あおそ

青芋をもう一度。

1年目は雪のことなんて全く分らないから、除雪にスコップが必要と言われた時には、神戸ではスコップは手シャベルのことだから、台所のお玉で代用しようとして呆れられたこともありましたね。そんな風だから、私のこと不憫やったんやないかなあ。(笑)みんなが手助けしてくれました。私は雪が楽しいんです。神戸では雪が降らないから年間を通してあくせくしていた気がして。こっちは雪でリセットできるから、よく考えます。雪が大切な時間を私にもたらしてくれるので、心身のリハビリになるんです。



こちらに来て数年後に一級建築士の関由有子さんと雁木のまち再生の方たちと出会いました。関さんと街づくりのイベントについて話していた時に、昔はこちらの特産品だった「青芋(あおそ)からむしの表皮からとれる繊維」の話題がでした。葉は食べることができて、栄養価が高いこと、茎は越後上布の原材料であることを話しているうちに、青芋でイベントをやろうということになりました。ところがまわりに青芋のことを知っている人があまりいない。じゃあ、自分でやろうと思い、調べ始めたら、栽培して糸にして織るまで、すごい時間がかかる!だからイベントは、見送りで。

青芋のことを調べているうちに、上杉謙信公のことも知り始めて、謙信公にとって青芋は軍資金だったこと、青芋から越後上布を織って、京都や大阪に売って、その税金で潤ってほったと知ったんです。それなのに今ここにはない。福島と山形にしかない。上越の人たちは青芋のことあんまり知らない、なんでー?って。謙信公のこともそこまで興味がなさそうだし。山形ではあんなに盛り上がりつつあるのに。お館さま(謙信の愛称)はいなくなっちゃった。しゅんとしてしまっている感じ。なので、もう一回それを呼び戻せへんかなあ、と。上杉謙信公という歴史的背景が色濃くあった上越で、「青芋」がもう一度、根づかへんかなあという思いで栽培を始めたところです。1年目は山形から根を取り寄せて植えました。親株を育てて、これから増やして。うわあ先の長い話やわ(笑)。でも、あきらめなないですよ。その先が見たいから。好奇心!これで上越がどうなっていくのか見たい!

上越産の青芋を育てて「THE上越」を作りたい。越後上布のようなものは、まだまだ先の長い話だけれど、グッズを作るのが良いのではないかとというアドバイスをいただいています。おじいちゃんやおばあちゃんに青芋の栽培や糸にする手仕事を手伝ってもらったり、小学校の子どもたちが青芋を刈り取ったり、お茶を作ったり。みんなでワイワイできればいいなあ。青芋から何らかの産業ができて、そこに関わる人がいて、お休みしていた畑がよみがえる、そんな景色がみたい。今は私がやっているけれど、いつかはみんなが適材適所で、新たな伝統として引き継がれていくと良いですね。昨年、住まいと治療院が二つになり、余った部屋を「青芋のいえ」として民泊に活用中。いつか旅の方たちにも、上越の青芋でつくった製品や、体験を提供できたら良いなあと思っています。